

「非常持ち出し本」完成

兵庫県では、「ひょうご安全の日を定める条例」(平成17年4月1日施行)にもとづき、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として、1月17日を「ひょうご安全の日」と定め、県民の参画のもと、災害による被害の軽減にも貢献していくことを期する日として定められています。

その「ひょうご安全の日を定める条例」の趣旨を踏まえ、「1.17は忘れない」ための取組を推進するために、県民、民間団体等が主体的に企画する防災・減災に関する活動への助成を通じて、震災の経験と教訓を発信するとともに、草の根レベルでの災害への備え及び減災に寄与することとした助成事業があります。グリーンシティ防災会でもこの助成事業「ひょうご安全の日推進事業」を利用し、本年度も多彩な事業を行い、そのひとつとして「グリーンシティ防災ハンドブック」を制作しました。

「非常持ち出し本・Disaster Imagination Book」と題して、「災害発生時にどのような行動をとればよいのか?」また、「その瞬間にすべきことは何なのか?」を多くの資料から我々自主防災組織として考えてみました。

昨年発行した「命のライセンス」にもとづき、小冊子では書ききれなかった細やかな行動指針も掲載し、よりわかりやすくきめ細やかな説明になりました。

「非常持ち出し本・Disaster Imagination Book」は、もしも、あなたが地震やその他の災害に遭遇した場合、あなたとあなたの大切な人がどのような危険にさらされ、日常生活がどのようにになってしまうのかを想像した災害イメージ解説書です。災害発生後、あなたとあなたの大切な人がどのような状況におかれてしまうのかを、またそれ以前に、今、何をしておけばよいのかを一冊にまとめてみました。

災害が発生する前にできることは多く、「備え」「構える」ための時間の長さは、発生してからとは比べものになりません。災害をイメージすることで、災害より一歩先手をとることで、あなたとあなたの大切な人が受けるであろう被害を軽減することができると思うのです。

災害に「備え」「構える」ための方法はたくさんありますが、あなたが受けるであろう災害をイメージできなければ、どんなに備えをしたとしても、あまり意味がありません。「災害をイメージする」ことで非常に有効な対策や準備ができるのです。

災害に「備え」「構える」ための方法はたくさんありますが、あなたが受けるであろう災害をイメージできなければ、どんなに備えをしたとしても、あまり意味がありません。「災害をイメージする」ことで非常に有効な対策や準備ができるのです。

あなたとあなたの大切な人が直面する被害を、少しでも軽減するためのアイテムとなるよう「非常持ち出し本 Disaster Imagination Book」をお役立てください。

「非常持ち出し本」の中身は

地震! その時あなたは「守れ」

あきらめるな! 大丈夫、あなたにならできる! 「救え命」

緊急連絡・安否確認「伝える」

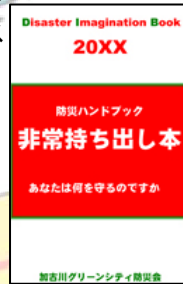
生活再建・勇気を出してともに歩む「被災者支援」

やっぱり日頃から備えよう「構える」

まさか? こんな場所で地震? 「想定」

資料

7つの項目に分けて災害時に「あわてず」「迷わず」あなたやあなたの大切な人の命が助かるように解説しています。「災害」それはすべて同じケースはありません。防災の専門家・災害救援のエキスパートであったとしても、経験や勘に頼りすぎると思わぬ失敗や時には致命的な誤りを犯してしまうことがあるのも事実です。どのような災害においても常に未知との遭遇があることを絶対に忘れてはいけません。まして我々一般市民ともなれば、ほんのわずかな防災知識で未曾有の災害と闘わなければならないのが現実なのです。それら災害を迎え撃つために「非常持ち出し本」を使って、いつ何時災害に襲われても「命を守る」ために日頃からの備えを再確認してみましょう。



「自主防災連絡会」加盟組織募集!

形だけではなく真剣に本気で「防災」と取り組みたい個人・組織(自主防災組織・町内会・自治会・管理組合・行政・各種団体など)の方々、私たちグリーンシティ防災会と一緒に「防災」について考え、災害時の連絡体制の構築や支援協力について勉強してみませんか!

現在の状態では、防災連絡体制はもとより、防災連絡の発信手段整備、相互連絡通信体制、救助救出支援体制や組織別の救援救助物資資機材など、わからない



ことが多い上に、防災における横の繋がりはほとんど無く、全くわからない状態とも言えるでしょう。発災時に隣のまちで救援を必要としていても、現在の状態では連絡をとれるまでに恐ろしく時間を要してしまうことが考えられます。人任せにせず、みんなで真剣に「守ること」を一緒に考えませんか。

連絡先は

Mail : bousai@greencity.gr.jp または

FAX : 079-427-0793 グリーンシティ防災会迄

山崎断層帯地震、南海地震などの巨大地震が発生した場合言えることは、助けてくれるはずだと思っている災害支援エキスパートである消防、警察、自衛隊の人員には限りがあることをあなた自身が理解しなければ、「その時!」あなたは大切なものを失うことになります。